

令和3年2月24日
不動産・建設経済局 地価調査課

主要都市の地価動向は前期と比較して上昇地区数が増加

～令和2年第4四半期の地価 LOOK レポートの結果～

主要都市の高度利用地等(全国 100 地区)における令和2年10月1日～令和3年1月1日の地価動向は、前期と比較して、横ばい・下落地区数が減少し、上昇地区数が増加した。

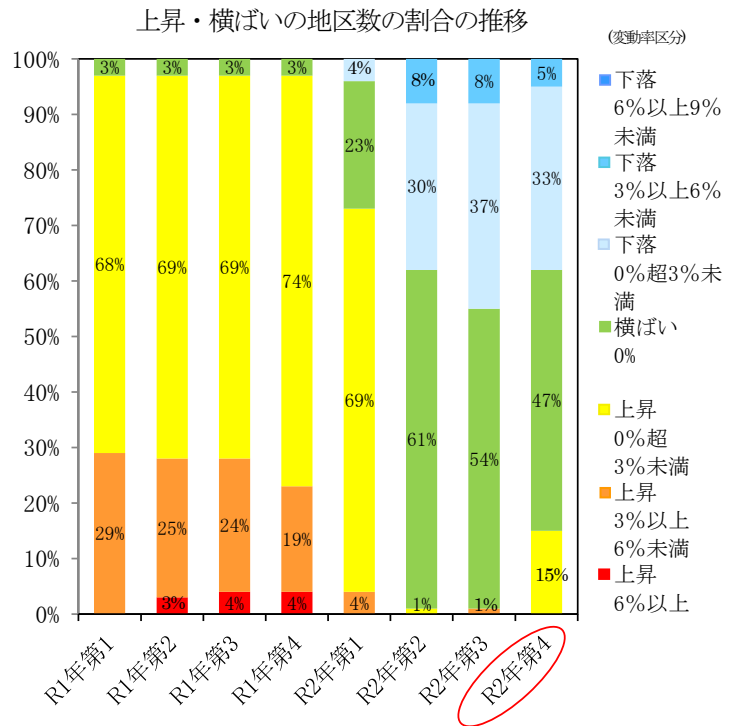
- ◆上昇地区数が1地区から15地区に増加し、横ばい地区数が54地区から47地区に減少し、下落地区数が45地区から38地区に減少した。
- ◆変動率区分は67地区で不変、27地区で上方に移行、6地区で下方に移行。
- ◆住宅地では、横ばい又は下落から上昇に転じた地区が見られる。商業地では、横ばい又は下落から上昇に転じた地区が見られる一方、上昇又は横ばいから横ばい又は下落に転じた地区も見られる。

【主な要因】

- 住宅地では、マンションの堅調な販売状況や事業者の素地取得の動きが回復したことにより、需要が堅調な地区が見られる。また、商業地では、再開発事業の進展等により、需要の回復が一部の地区で見られる。
- 一方、商業地では、新型コロナウイルス感染症の影響により、ホテルや店舗等の収益性の低下により下落が継続している地区や、店舗やオフィスの空室が増加し新たに下落に転じた地区が見られる。

【前期からの地価動向の変化】

前期	●「上昇」(3～6%の上昇)	1地区
今期	●「横ばい」(±0%)	
前期	●「横ばい」(±0%)	12地区
今期	●「上昇」(0～3%の上昇)	
前期	●「横ばい」(±0%)	37地区
今期	●「横ばい」(±0%)	
前期	●「横ばい」(±0%)	5地区
今期	●「下落」(0～3%の下落)	
前期	●「下落」(0～3%の下落)	3地区
今期	●「上昇」(0～3%の上昇)	
前期	●「下落」(0～3%の下落)	9地区
今期	●「横ばい」(±0%)	
前期	●「下落」(0～3%の下落)	25地区
今期	●「下落」(0～3%の下落)	
前期	●「下落」(3～6%の下落)	3地区
今期	●「下落」(0～3%の下落)	
前期	●「下落」(3～6%の下落)	5地区
今期	●「下落」(3～6%の下落)	



※地価 LOOK レポート(主要都市の高度利用地等の地価動向報告)とは、国土交通省が、主要都市の高度利用地等を対象に、四半期毎の地価動向を調査し、先行的な地価動向を明らかにするもの。調査対象は全国 100 地区で、内訳は以下のとおり。調査結果の詳細は、以下のHPで公開。

■調査対象内訳：東京圏 43 地区、大阪圏 25 地区、名古屋圏 9 地区、地方圏 23 地区

■ホームページ：http://www.mlit.go.jp/totikensangyo/totikensangyo_fr4_000045.html

<お問い合わせ先>

不動産・建設経済局 地価調査課 地価公示室

主任分析官 信原 (内線 30366)、分析官 齊藤 (内線 30367)、企画係長 葛貴 (内線 30323)

(代表) 03-5253-8111 (直通) 03-5253-8377 (FAX) 03-5253-1578